Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123　青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997　FAX017-728-6351

センターだより

第83号
令和7年11月4日発行

あおもり教育研究発表会２０２５
～未来につなぐ青森の教育～　のお知らせ

と　き：令和７年１１月１４日（金）　ところ：青森県総合学校教育センター

≪ 主な日程 ≫

９：００～	受付開始
９：３０～	開会行事
９：４０～	２年目研究員研究発表
１１：３０～	センター研究発表①
１２：００～	昼食
１３：００～	センター研究発表②
１３：４０～	センター研究発表③
１４：２０～	講演
１５：５０～	閉会行事

≪ 展　示 ≫

展示場所	展示内容
特別支援教育課棟（１階）	特別支援教育教材教具展示会
中研修室前（２階）	図書資料室にある書籍等の紹介ポスター

≪ 講　演 ≫

【演題】
「学びのユニバーサルデザイン（UDL）の枠組みによる主体的な学習者の育成」

【講師】
北海道教育大学教職大学院准教授
川　俣　智　路　氏

【プロフィール】
専門は臨床心理学、教育心理学
・日本思春期青年精神医学会運営委員
・東京共育学園高等部評議員
監修 北海道教育大学未来の学び協創研究センター姫野完治、川俣智路、後藤泰宏
編著『ICTを活用したこれからの学び　次世代を担う教師のためのICT入門』一莖書房2022年、「学校における支援の視点」（分担執筆『そだちの科学』34）日本評論社2020年 など

センター研究について

1.目　的
本県学校教育の課題解決や学校支援に資する実践的･先導的な研究を行うことにより､その成果が学校現場で生かされるようにする。

2.研究テーマ
「一人一人の子供を主語にする学校教育の実現に向けて」

3.テーマ設定の理由
「子供を主語にする」とは､「指導者の視点」から「学習者の視点」へ、「授業」から「学習」へ、「履修」から「習得」へ、「指導」から「伴走」へとシフトしていくことを意味している。「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」において示されているキーワードの一つでもあり、一人一人の子供の個性やニーズを尊重し、子供がもつ潜在能力を最大限に引き出すことを目指した教育の在り方を示している。しかし、実態としては、まだまだ教師主導の学校教育が行われており、子供を主語とした学校教育はなかなか浸透していないのが現状である。
青森県においても、令和の日本型学校教育が浸透していくよう研究に取り組んでいきたいと考えている。

令和7年度 研究グループ
①義務教育課
②高校教育課
【探究的な学びユニット、特別支援教育ユニット、学習評価等ユニット】
③高校教育課・産業教育課
【遠隔教育ユニット】
④特別支援教育課
⑤教育相談課

次のページから各グループの研究を紹介します。

義務教育課グループ

研究テーマ

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の在り方の研究」

研究概要

《テーマ設定の理由》

児童生徒の資質・能力を育成するために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが求められている。誰一人取り残さず、全ての子供に「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしていくための視点が「個別最適な学び」のスタート地点である。「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥ることのないよう、「協働的な学び」と一体的な充実を図り、相互に関連付けることで学びが深まったり、新たな課題の発見につながったりすることが考えられる。そこで、小学校、中学校それぞれにおいて、複数の教科の単元づくりを通して授業改善の具体案を提案したいと考えた。

《研究目的》

小・中学校の学習指導で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を促す授業の在り方を研究することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。

《研究内容》

小・中学校の教科における単元づくりを通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を促す授業の在り方について提案する。

メンバー紹介【義務教育課】

小学校・・齋藤 紀行、津嶋 由香、山口 繁弥、石田 真大

中学校・・津田 健一郎、野呂 俊光、澁谷 尚志、葛西 雄、石塚 香織、長谷川 紘一

高校教育課(探究的な学びユニット)

研究テーマ

教科における探究的な学びに関する研究

メンバー紹介【高校教育課】

青木 雅俊

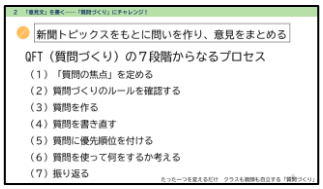
千葉 靖幸、古川 規友、山口 浩順

研究概要

高等学校の学習指導において、各教科・科目で実践されている探究的な学びに関する実践事例集を作成し、学校現場での教科における探究的な学びの促進に寄与する。

質問づくり(QFT)の実践事例 実践事例校・センター研修

質問づくり(QFT)に焦点をあて、実践校の事例やセンター研修での事例をまとめます。



探究的な学びの実現に向けた 協働・共創プロジェクト

全国の先生方と繋がる、探究的な学びについてのオンライン研修。

第3回は教科における探究をテーマに、探究のカギとなる「問い」について考えました。

実践発表もありました。

高校教育課(特別支援教育ユニット)

研究テーマ

青森県内の高等学校における
特別な配慮を要する生徒へのアプローチに係る研究

研究概要

【研究目的】
青森県内の高等学校における特別支援教育の課題解決に役立つ情報を整理・分析し、県内の高等学校で活用できる「特別支援教育ガイド」を作成することで高等学校教員の特別な配慮を必要とする生徒に対する支援の一助とする。

【研究内容】
・県内の高等学校における特別支援教育に関する課題の分析
・課題解決に役立つ情報を整理
・「特別支援教育ガイド」を作成

メンバー紹介【高校教育課】
八木澤 真奈美 、道川 里奈、佐々木 康之

高校教育課（学習評価等ユニット）

研究テーマ

「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の検討

研究概要

課題

- 形式的なものになっている
- 指導改善のための評価となっておらず、いまだに評価のための評価となっている
- 教員どうし、または教員と生徒で共有できていない
- 主体的に学習に取り組む態度の評価方法に課題がある

研究内容

「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、評価方法を検討し、各教科における事例を作成する

研究方法

・文献調査による事例の研究
・講座（C番台）における現場の教員への聞き取り
・各教科におけるパフォーマンス課題およびルーブリックの開発

メンバー紹介 【高校教育課】

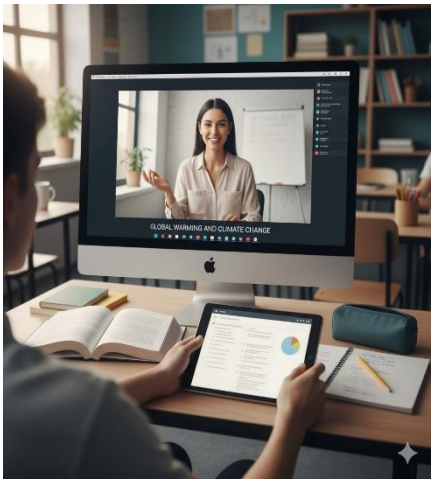
髙村 裕彦、柴田 裕介、齋藤 研

高校教育課(遠隔教育ユニット)

研究テーマ

遠隔教育（講習）による個別最適な学びと協働的な学びの実現

研究概要



本研究では、「個別最適な学びと協働的な学びの実現」の視点を踏まえ、学習状況に応じて効果的にICTを活用した遠隔教育の在り方を探究する。現在、機材整備を進めつつ、冬季には県内５校を対象に講習形式の遠隔教育を試行し、今後の本格的な遠隔教育実施の下地を築くことを目指す。各校のニーズ（模擬試験対策、既習内容の復習、発展問題）に応じて内容を設計し、対面と変わらない学びの質を確保する。これらの取組みを通して、個別最適な学びと協働的な学びを両立させる遠隔教育モデルの構築を図る。

メンバー紹介【高校教育課】

竹内 均、神 隼司、田中 孝幸、加賀 利瑛

産業教育課(遠隔教育ユニット)

研究テーマ ： 生徒の多様な学びを支える遠隔教育の実践について

研究概要 ： 地域に左右されない教育の「質」の確保に向けた配信スタジオおよび配信機器等の整備、新規回線の敷設等、遠隔教育を実現する配信環境を構築する。

メンバー紹介【産業教育課】

越 洋、新堂 満香、小野 育恵、田中 和幸、秋村 文寿、八屋 孝彦、米田 文彦

特別支援教育課グループ

研究テーマ
省察と対話を核とした授業研究モデルの開発
～子供の学びの事実を起点とした授業研究の在り方～

研究概要

本研究の目的は、子供の学びの姿に基づく省察を教師同士で共有できる授業研究モデルを開発することである。

はじめに、教師の省察がどのような過程を経て深まり、実践の変容へとつながるのかという理論を導き出すために、インタビュー調査を実施した。得られたデータは、木下（2003）に基づく修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチにより分析し、その成果を踏まえて新たな授業研究モデルを構築している。

本モデルでは、バン・マーネンの省察の枠組みを用い、技術的リフレクションから実践的リフレクション、さらに批判的リフレクションへと省察を深めていくことを重視している。加えて、「子供の学びの姿」との関連から「教師の教え」を再考し、教師集団が学び合う関係を築く中で、省察を習慣化することを意図している。

なお、本研究では、2025年10月から11月にかけて、研究協力校３校において「ラウンドスタディ」試行版を実施する予定である。

メンバー紹介【特別支援教育課】
小田桐 直美、藤川 くみ、木村 美佳子、奈良 真希、加賀谷 紀

教育相談課グループ

研究テーマ
グループ・アプローチによる安心できる学級づくりの支援
～子供が自分らしくいられる関係性の育成～

研究概要

≪研究目的≫

子供が安心して自己を表現し、他者と関わることのできる学級づくりを支援するため、グループ・アプローチの有効な活用方法を明らかにする。

子供の思いや行動を理解し、教師が「伴走者」として関わる教育相談的支援の在り方を明確にする。

子供を主語にする教育の実現に向けて、集団づくりの視点から教育相談の実践を再構築し、学校現場への還元を図る。

≪研究内容≫

・グループ・アプローチの理論や活用に関する文献・事例の収集
・小中高等学校ならびに特別支援学校での実践的な導入・検証
・各発達段階に応じたプログラム（例：学級活動での活用、学年別のテーマ別活動）の開発
・教育相談的支援（事前・事後の個別対応やコーディネートを含む）の在り方の検討

メンバー紹介【教育相談課】
葛西 励、飯田 香久、千葉 玲奈、奈良岡 洋平、髙田 秀行、新岡 雄大、鈴木 真実

こころの教育相談センターの活動紹介（教育相談課）

～日々の学びと、様々な経験やふれあいで、社会的自立を支えます～

学校に行きたくても行けない児童生徒の不安や悩みを軽減し、人間関係の改善等の適応能力を育み、社会的自立を目的に支援を行っています。

学びの時間

自分の得意科目の更なる強化や苦手箇所の克服、定期テストや進学対策など、各々の目標に向かって学習に励んでいます。指導員や担当相談員が支援や補助にあたります。

昼食・休憩後には、１５分間のパワーアップタイム（国・数・英）を設け、基礎基本の定着を目指した学習に取り組みます。

英会話の時間

ＡＬＴを招き、ネイティブの発音に触れながら、読み書きや発音のスキルを高める活動を行っています。また、スポーツや調理など様々な活動を通してＡＬＴの出身地や様々な国についての文化を楽しく学ぶ機会にもなっています。

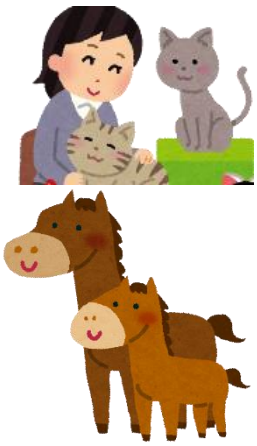
ＮＩＥの時間

興味や関心をもった新聞記事を切り抜き、感じたことや学んだことなどを、自分なりにまとめたコメントを添えて掲示していきます。社会の今を知るとともに、郷土への理解を深めながら表現力を養っていきます。

ふれあいタイム

コミュニケーション能力や良好な人間関係を築く力を身に付けるために、人間関係づくりプログラム（対人関係プログラム、ソーシャルスキルトレーニング、構成的グループ・エンカウンターなど）を行っています。

動物ふれあい体験



動物愛護センターで犬の散歩やシャンプー体験など、動物とのふれあいを行っています。動物とのふれあいを通して、心を癒し、温かな交流を図ることで、コミュニケーション能力や人間関係を築く力を身に付ける機会になっています。

文化祭

通所生で決めた「十人十色」のテーマの下、今年度もハンドベルの演奏や書道パフォーマンスの発表を行います。文化祭準備から実施まで、自主性・意欲・人間関係等を育むための内容になっています。

創作活動

通所生の意欲・自主性・創造性等を育むために、様々な創作に取り組んでいます（風鈴、フロッタージュ作品、バルーンアート、花飾り、ポーリングアート、勾玉、絵手紙等）。また、文化祭前には会場の装飾類（文化祭看板、ステージ演出等）を創作しています。